

令和6年度版

緊急対応の手引

防災管理者 保健部署 寮務課 課外活動担当

- P1. 2 緊急避難対応等について
- P3. 4 ミサイルが発射された時の緊急対応について
- P5 不審者対応の流れについて
- P6. 7. 8 事故発生時の救急及連絡体制（保健室）
- P9 課外活動での事故防止8箇条
- P10. 11. 12. 13
スポーツ事故対応ハンドブック
- P13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 21
各校舎、実習棟等避難経路

羽黒高等学校

緊急避難対応等について

羽黒高等学校

1. 地震発生時

◎地震発生 ※全校放送「地震です。教室（寮内）にいる人はすぐに机の下（2段ベット下段）にもぐりなさい。机の脚をしっかりと持ちなさい。教室以外にいる人は落下物、倒れてくるものに注意しなさい。」

★生徒

- ①HR 教室 机の下にもぐり、脚をしっかりとって、落下物から身を守る。
- ②特別教室 実験や実習を中止し、薬品や器具の落下及び火気に注意。机の下にもぐるなど落下物から身を守る。
- ③寮室内 2段ベット下段や机の下にもぐり、脚をしっかりとって、落下物から身を守る。
- ③廊下 壁、窓から離れ、蛍光灯やガラス等の落下物から身を守る。
- ④体育館 中央に移動し、姿勢を低くする。天板、天井灯の落下に注意する。
- ⑤避難場所 全体の指示に留意し、落下物、倒壊の危険がない地点に避難・集合する。

◎避難 ▲避難場所 本校舎 秋元記念館 総合体育館 家庭科会館 ⇒校舎前広場
or 総合体育館裏駐車場
本校舎北側（実習、体育、部活動）で活動の場合 ⇒グラウンド
郷友寮 ⇒東側駐車場

▲避難経路図 別紙

※全校放送「地震はおさまりましたが、余震の心配があります。教員の指示に従い慌てず避難経路を通り、〇〇に避難して下さい。」

★生徒

- ①「押さない、走らない、しゃべらない、もどらない」を守り、行動する。
- ②落下物、倒壊物に注意。頭上を守るものをかざしながら避難する。（バック、体操着等）
- ③生徒同士が助け合い、声をかけ合うなど協力しながら避難する。

◎避難場所では

★生徒

- ①避難確認（安否確認）の為、指示された場所にクラス毎に整列待機。
※郷友寮からの避難の場合、各階毎に整列。階長が点呼、報告。
- ②避難場所の整列地点から勝手に移動しない。指示があるまで留まる。

◎避難終了 被害状況確認後の対応

- ①災害状況によっては次の対応を実施します。
 - (1) 授業再開 ・危険箇所の立ち入り規制
 - (2) 一斉下校 ・S Bの全路線配車
 - (3) 保護者への引渡し ・保護者へ連絡の後、迎えのもと帰宅
 - (4) 学校での保護等 ・校内避難場所での保護（交通状態の麻痺 生徒自宅周辺の危険）

2. 火災発生時

☆火災発生

火災報知等 ※全校放送「ただ今火災報知機がなりました。場所と火事かどうか調べています。その場で静かに、次の放送を待ちなさい。」

※情報収集と火災確認

火災確認後 ※全校放送「火事です。〇〇〇で火災が発生しました。燃え広がる恐れがあります。先生の指示に従い、〇〇〇方面の避難経路は避け、〇〇に避難して下さい。」

☆避難 ▲避難場所 本校舎 秋元記念館 家庭科会館 (総合体育館) ⇒総合体育館
本校舎北側(実習、体育、部活動等)で活動の場合 ⇒グランド
郷友寮 ⇒東側駐車場

★生徒

- ①「押さない、走らない、しゃべらない、もどらない」を守り、行動する。
- ②ハンカチ等で口を覆う。頭上を守る(体操着など)
- ③壁や窓から離れ、壁、窓に背を向けないように避難。
- ③生徒同士が助け合い、声をかけ合うなど協力しながら避難する。

☆避難場所では

★生徒

- ①避難確認(安否確認)の為、指示された場所にクラス毎に整列待機。
※郷友寮からの避難の場合、各階毎に整列。階長が点呼、報告。
- ②避難場所の整列地点から勝手に移動しない。指示があるまで留まる。

☆避難終了 被害状況確認後の対応

- ①災害状況によっては次の対応を実施します。
 - (1) 授業再開 ・危険箇所の立ち入り規制
 - (2) 一斉下校 ・S Bの全路線配車
 - (3) 保護者への引渡し ・保護者へ連絡の後、迎えのもと帰宅
 - (4) 学校での保護等 ・校内避難場所での保護(交通状態の麻痺 生徒自宅周辺の危険)

3. その他の緊急対応

- 風水雪災害 風水雪災害にて登下校困難が想定された場合、休校(一斉下校)とする。
休校⇒スクーバス運行を含め速やかにBLENDあるいは本校HPに「緊急のお知らせ」の表題にて通知する。尚、事前に荒天が想定され休校が決定された場合は、前日通知をおこなう。

- 落雷・竜巻の発生

⇒迅速に校内放送や校外巡視にて危険の通知と安全行動の呼びかけをおこなう。

★生徒

- 落雷 ①建物、車の中に避難する。電気製品から離れる。
②周囲に建物がない場合、足を閉じてしゃがみ、身を低くする。
③高い木には近づかない。

- 竜巻 ①頑丈な建物の中に至急避難する。
②建物内では窓から離れ、ものが飛んでこない安全な場所を確保する。

- クマ出没の場合

⇒事態を把握後、校内放送や校外巡視にて危険の通知と安全行動の呼びかけをおこなう。

ミサイルが発射された場合の緊急対応について

羽黒高等学校

国民保護サイレン・全国瞬時警報システム（Jアラート）等により
ミサイルの発射警報があった場合 ⇒5分間以内に避難行動を完了しよう！！

◎校内活動時

●本校舎

- ①活動を直ちに中止し、教室の窓を施錠の上、東、西の階段（1～3階）エリアに避難する。
1LIA 1LIB 1CA 1CB 2LIA 2LIB 2CA 2CB → 東側階段エリアに避難
1CC 1CD 1E 1M 1A 2CC 2CD 2E 2M 2A → 西側階段エリアに避難
- ②各階防火扉をしっかり閉め、連絡があるまでその場に留まり、避難解除を待つ。

●秋元記念館・家庭科会館・陶芸教室・郷陵会館・文化活動棟

- ①活動を直ちに中止し、教室の窓を施錠の上窓から離れ、机をなるべく部屋の中心に集めてその下にもぐりこむ。
- ②連絡があるまでその場に留まり、避難解除を待つ。

●実習棟・文化活動棟

- ①活動を直ちに中止し、実習室、教室の窓を施錠の上窓から離れる。
- ②2階で活動しているものは1階に移動する。実習工場出入り口の施錠をおこなう。
- ③窓から離れ、机を1階実習室、教室の中心に集めてその下にもぐりこむ。
- ④連絡があるまでその場に留まり、避難解除を待つ。

●総合体育館・第一体育館・多目的体育館・柔道場・剣道場

- ①活動を直ちに中止し、窓、建物出入り口を施錠する。
- ②建物の中心に集まり、低くしゃがみ、頭を保護する。
- ③連絡があるまでその場に留まり、避難解除を待つ。

●各グラウンドエリア

- ①活動を直ちに中止し、第一体育館・多目的体育館に避難する。
- ②建物の窓、建物出入り口を施錠する。
- ③体育館の中心に集まり、低くしゃがみ、頭を保護する。
- ④連絡があるまでその場に留まり、避難解除を待つ。

●自動車教習所

- ①活動を直ちに中止し、教習所内に避難する。
- ②窓、建物出入り口を施錠し窓から離れ、机を教室の中心に集めてその下にもぐりこむ。
- ③連絡があるまでその場に留まり、避難解除を待つ。

●郷友寮

- ①居室の窓の施錠をおこない、窓から離れる。(屋外にいた場合は至急寮内の居室に避難)
- ②2段ベット下段、机の下などにもぐりこむ。
- ③連絡があるまでその場に留まり、避難解除を待つ。

※屋外での活動中は屋内(できるだけ頑丈な建物)に避難する。窓を施錠の上、ガラス飛散や建物倒壊に備えて、窓から離れて机等の下にもぐりこむ。連絡があるまでその場に留まり、避難解除を待つこと。

避難する建物が無く屋外に留まらなければならない場合、口と鼻をハンカチ等で覆い、地面に伏せ頭部を守る体制をとること。

◎登校・下校時

●スクールバス乗車時

- ①直ちにスクールバスを安全な場所に停車する。(スクールバス運転手)
- ②状況が確認されるまでスクールバス内で待機する。
- ③全国瞬時警報システム(Jアラート)等での情報により、スクールバス運転手の指示のもと下記の行動をとること。
 - ④安全が確認され、スクールバス運行により登校する。
 - ⑤スクールバス駐車場所付近の危険情報があった場合、バスから降車し付近の建物等に避難をおこなう。

避難する建物が無く屋外に留まらなければならない場合、口と鼻をハンカチ等で覆い、地面に伏せ頭部を守る体制をとること。
- ⑥登校することが危険と判断される場合や、臨時休校が決まった場合、運行ルートを引き返しながら生徒は降車、帰宅する。

●徒歩、自転車の場合

- ①付近の公共の建物へ避難する。(公共の建物：学校 市役所 庁舎 駅舎 公民館等)
- ②窓から離れる。頑丈な物の下にもぐりこむなど、安全確保の行動をとる。
- ③避難する建物が無く屋外に留まらなければならない場合、口と鼻をハンカチ等で覆い、地面に伏せ頭部を守る体制をとる。(至急の場合、事情を説明し民間の建物などにも避難を申し出ること)

●公共交通機関乗車時

- ①運転士、運行責任者の指示に従い、安全確保、避難の行動をおこなうこと。

●休校の連絡

- ①スクーバスの運行を含め速やかにBLEND、あるいは本校HPに「緊急のお知らせ」の表題にて休校の通知をおこなう。尚、事前に有事が想定され休校が決定された場合、事前通知の上休校の連絡をおこなう

以上

不審者対応の流れについて

- 校地内で部外者（身元不明者）の人物の立ち入りがあった場合

《正当な理由での立ち入りかどうか》

《観察してチェック》

- ・来校者のネームプレートがあるか
- ・不自然な場所に立ち入っていないか
- ・不自然な言動、行動、暴力的な態度
- ・凶器、不審物の所持はあるか



《声をかけ、用件をたずねる》

【相手との適切な距離をとる】

- ※相手が手を伸ばしても届かない距離を保つ
- ・用件が直ぐ答えられるか、また正当なものか
- ・教職員に用がある場合、その氏名、学年、教科などの担当を答えられるか
- ・保護者なら、生徒の学年、クラス、氏名が答えられるか
- ・課外活動等の来校であれば、本校の活動団体名と担当者、所属団体の来校責任者の名前、活動場所を答えられるか



《正当な理由なし⇒丁寧に退去を求める》

《退去を求める》 できるだけ複数で！

【躊躇せず退去を求める】

【一人の場合は、一度その場を離れ、迅速に他の教職員と共に複数で対応】

【躊躇せず退去を求める】

【相手との適切な距離をとる】

- ※相手が手を伸ばしても届かない距離を保つ

【毅然とした態度、相手に背を向けない】

【生徒がいる場所へ向かわせない】



《退去⇒再び侵入しないか見届ける》

【敷地外に退去したことを見届ける】

【再侵入や付近に居続ける可能性があるので、暫時複数の教職員がその場で様子を見る】

【(必要に応じ) 警察への通報。近隣の学校、行政機関にも連絡する】



《退去に応じない》

《不審者とみなし110番通報》

【全教職員に110通報したことの周知】

【更に多くの教職員に応援を求める】

【生徒避難経路、避難場所の確認】

【不審者から目を離さない・所持品に注意する】

※手の動き

※カバン内（刃物、こん棒、液体状のもの等）

【生徒がいる場所へ向かわせない】

【隔離の試み】

※その場にとどまらせる

※別室での隔離を促す場合は複数で誘導、不審者を先に入室させる、室内でも複数で対応し別室扉は解放

【丁寧に対応し、警察の到着を待つ】

※すでに別の場所で事故等が発生している可能性

※目の前のことだけがすべてではないという想定



《隔離不能・暴力的な行動》

『生徒の安全を最優先に守る』

防御（暴力の抑止と被害拡大の防止）する

【多くの教職員が防御に役立つもので取り囲む】

★机、いす ★傘 ★丈夫な棒状のもの

★さすまた※本校舎事務室・2F 校長室前に配備

【生徒への注意をそらす、生徒に近づけない】

【不審者の確保は警察がおこなう】

※第1に時間稼ぎ優先・第2に複数人数での止め

【生徒の安全確保の行動・待機か避難か】

※不審者と生徒との遭遇を絶対に避ける

※状況に応じた全体誘導を心がけなければならない



～不審者確保 事態の収収～

《生徒の安全、人員確認 負傷者がいるか》

【生徒への人員確認】

【119番通報と応急手当】



《事後の対応と措置》

【速やかな情報の整理と提供】

【保護者への説明 報告書作成】

【生徒（教員）への心のケア】

事故発生時の救急及び連絡体制

保健室

事故発生

事故発見職員・事故連絡を受けた職員（※単独で行動せず応援を求める）

- ①現場へ急行し、負傷者へ一次応急手当
- ②近くの職員へ応援要請
- ③教頭へ状況通報・担任（部顧問）と養護教諭へ報告
- ④他の生徒への適切な指示

応援職員

- ①現場へ急行（**AED**と**携帯電話**を持参）
- ②他の生徒への安全確保と誘導
- ③管理職へ報告

AED設置場所

- ①本校舎事務室受付前⇔寮舎監室
（日中）（夜間）
- ②第3体育館

教頭

- ①事故現場へ急行、事態を確認して校長へ報告
- ②救急車要請 **TEL: 119**
- ③対応指示

担任

- ①現場確認・状況の把握
- ②保護者へ連絡
- ③病院への付添・救急車同乗
- ④事後の生徒の経過把握

養護教諭

- ①状況把握
- ②二次応急手当
- ③事後の生徒の経過把握
- ④事後処理(ｽﾌﾞ振申請)
※不在時は、その他教員が担当

救急車

保護者

- ①医療機関の指定
- ②保険証の持参
- ③医療機関へ向かう

医療機関

担架設置場所

- ①本校舎保健室前廊下
- ②総合体育館応接室
- ③第3体育館
- ④実習工場2階の階段付近

救急車が来るまでの対応

* 応急手当 * 電話の確保 * 保護者へ連絡 * 同乗者準備 * 外での誘導係の配置

救急車要請の目安となる症状

- *呼吸停止、呼吸困難なもの
 - *胸痛のあるもの
 - *多量の出血を伴うもの
 - *ショック症状（顔面蒼白・冷や汗・血圧低下・四肢冷感・虚脱感等）の持続するもの
 - *広範囲のやけどをしたもの
 - *けいれんの持続するもの
 - *大きな開放創をもつもの
 - *意識喪失の持続するもの
 - *手足の一部または全部に麻痺があるもの
- (注) 上記以外の場合でも判断に迷う時は、救急車を要請する。

救急車要請方法

- ① 119番に電話。
- ② 救急車をお願いします。
- ③ 学校名・所在地
- ④ 到着場所（総合体育館か、正面玄関か、グラウンドか等）
- ⑤ 傷病者の情報
- ⑥ 症状の簡単明瞭な報告
- ⑦ 救急車到着までにすること（処置）
- ⑧ 搬送希望病院
- ⑨ 救急車が到着したら、発生状況、傷病の経過、程度、施した応急手当、既往症等を報告。

医療機関連絡先

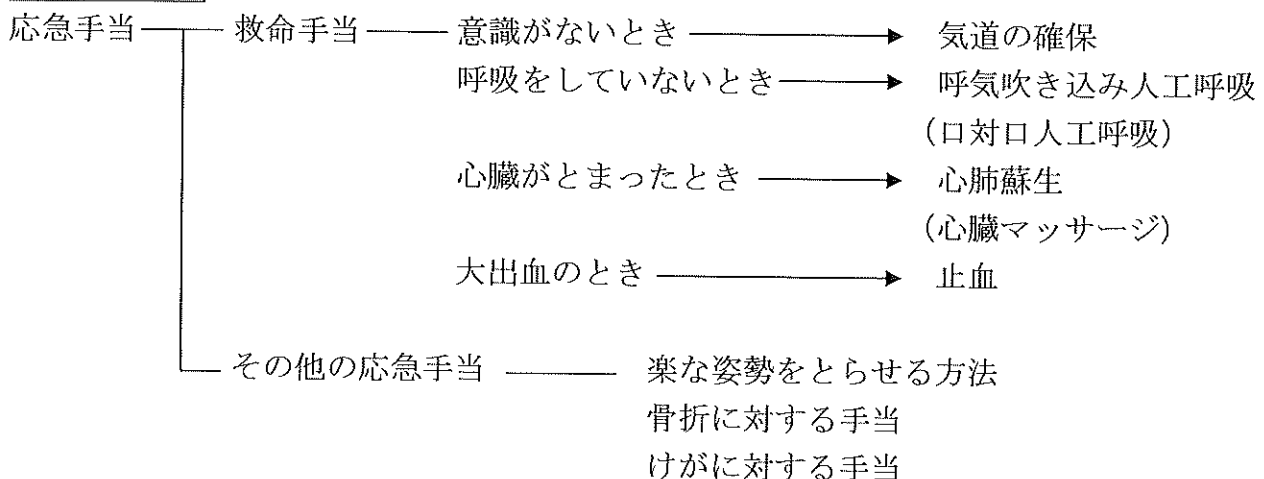
☆学校医

いでは診療所(火・水・土曜午後休)	(62) 3789
黒沢眼科医院(水曜午後休)	(24) 9638
耳鼻咽喉科たからだクリニック (木曜休み)	(26) 0133
佐藤歯科診療所	(62) 2164

☆病院

荘内病院	(26) 5111
にこふる休日夜間診療所	(23) 5678
日本海総合病院	0234 (26) 2001
庄内余目病院	0234 (43) 3434
中村整形外科(水午後休)	(25) 3811
宝田整形外科(木午後休)	(29) 1088
おぎわら医院	(25) 3131

応急手当

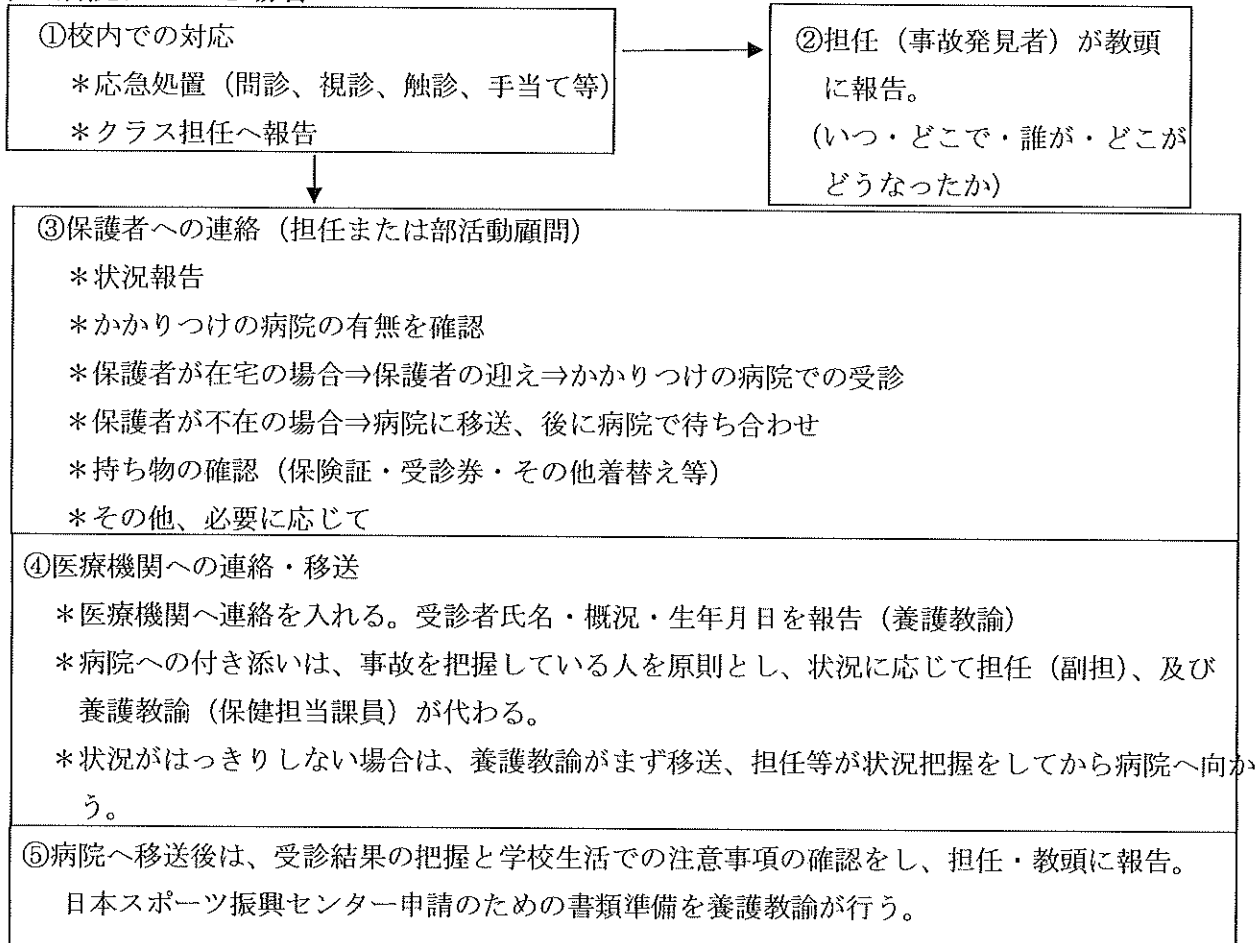


ケガ等発生時の対応

【養護教諭がいる場合】

部活動時は、担任の箇所が部活動顧問となる。

- (1) 軽いケガの場合・・・保健室で応急処置を行う
- (2) 病院にかかる場合



【養護教諭がいない場合】

保健部課員が対応、または保健部署員も対応できない場合には、学年の授業の空いている先生方で対応をお願いします。

- ①軽いケガの時は職員室にて応急処置を行い、必要によっては保健室を開け応急処置を行う。
- ②保健室に生徒を休養させる時は、生徒のみ保健室に置くことはしない。
対応した時間が終わった時は、すぐ保健室を閉め施錠を行う。生徒にはまかせないこと。
- ③受診する時は、養護教諭がいる時と同じ要領で進める。

※養護教諭が不在の時のために、救急箱を職員室阿曾の机の上に準備しておきます。

救急箱には絆創膏等の外科用品、体温計が入っています。

※アレルギーとの関連により、学校からの薬剤の服用は絶対にさせないでください。

課外活動での事故防止 8 箇条

～重大事故防止の為に～

羽黒高等学校

1. 事前に活動生徒の健康状況を把握し、それに適した活動を行う。
2. 常に活動環境を整理、整備し安全に十分配慮した上で活動を行う。
3. 活動時間帯や活動頻度、天候、内外気温などを把握し、生徒の安全に十分配慮した活動内容を心がける。
4. 顧問が学内不在の際に活動をおこなう場合、原則的に他の教員または学校が認める外部指導者が付き添い実施する。
※外部指導者については必ず、事前に学校長と面談の上、承認を得た人物であること。
5. 下記のような機械及び器具、装置また有害な化学薬品を用いておこなう活動は、特に生徒への安全指導を徹底させた上で、顧問は安全装置作動や緊急停止をおこなうなど、直ぐ生徒の安全が確保できる位置で指導する。また、活動環境や活動方法において著しく生徒の健康が損なわれると判断される場合も、必ず顧問が活動の終始その場所において活動を調整、指導する。
 - ・材料などを裁断、貫通、圧縮、溶接、研磨する機械、装置
 - ・バーベル、トレーニングマシン等
 - ・その他、接触した場合、身体に損傷を与えると思われる器具
6. 生徒の搬送を伴う活動は原則的にスクーバスを含めた「校用車」を使用する。また公的交通手段を利用する。やむをえず自家用車を使用する場合は、出張願い等で申請し事前に学校長の許可を得る。
7. スクールバス（レンタカー等のバスも含む）を運転する顧問は、必ず本校指定の安全運転講習を受講する。
8. 事故発生の緊急対応、救急搬送などの方法、手順を明確に把握し、実施する。校外での活動の際は、上記に加え避難経路、周囲の医療環境、救急搬送連絡先等の確認を必ず実施し、緊急対応する。

以上、上記 8 か条を基に各団体で詳細な「安全活動マニュアル」を作成、学校長に提出の上共有し、徹底遵守した活動をおこなうこととする。

「もしも」
のとき

落ち着いて正しく 伝えましょう

緊急時には1分の違いが状況を左右します。
落ち着いて正確に状況を伝えることが大切です。
もしものときの他の人への伝え方を確認しておきましょう。

- 1 いつ
- 2 どこで
- 3 だれが
- 4 どうした
- 5 今どうなっている

経過の記録も行いましょう。



令和2年度 スポーツ庁委託事業
学校における体育活動での事故防止対策推進事業
スポーツ事故対応ハンドブック

令和2年12月初版
編集・発行：独立行政法人日本スポーツ振興センター
学校安全部
TEL：03-5410-9154
URL：https://www.jpnsport.go.jp/anzen/



学校教育OK

本ハンドブックの無断転載、複製を禁じます。ただし、学校の様々な活動で使用することを目的とする場合に限っては、コピー、送信、配布等あらゆる非営利目的の利用が可能です。その他の目的による複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

スポーツ事故対応 ハンドブック (フローチャート編)

フロー
チャートで
すぐ役立つ!



- 心停止 >> 2 ページ
- 頭頸部外傷 >> 4 ページ
- 熱中症 >> 6 ページ
- 食物依存性運動誘発アナフィラキシー >> 8 ページ
- 歯・口の外傷 >> 10 ページ
- 眼の外傷 >> 12 ページ
- 緊急時対応計画MAP >> 14 ページ

学校・団体名 名前

独立行政法人日本スポーツ振興センター

JAPAN SPORT
COUNCIL

心停止の救命処置

何らかの反応があるか?

- ★ 大きな声で呼びかける
- ★ 肩を軽くたたく



反応の有無

わからない

- ★ 応援を要請
- ★ 119番通報
- ★ AEDを依頼

あり

10秒以内で観察

- ★ 正常な呼吸をしているか
- ★ 腹部や胸部の動き

呼吸の有無

わからない

普段どおりあり

倒れた人のそばを離れず、
全身の状態を観察

気道確保を行い、
応援・救急隊を待つ

心停止ではない人に、胸骨圧迫を行ったり
AEDを使用したりしても大きな問題は起こらない

直ちに胸骨圧迫を開始

※ 水の事故(溺水)では、気道確保と人工呼吸を優先する

- 強く.....(成人は少なくとも5cm、小児は胸の厚さの約1/3)
- 速く.....(少なくとも100~120回/分)
- 絶え間なく.....(中断を最少にする)

- ★ 人工呼吸ができる場合
→ 胸骨圧迫：人工呼吸=30：2
- ★ 人工呼吸ができない、(感染の心配等で)ためられる場合
→ 胸骨圧迫のみ

AED装着



心電図解析

電気ショックの必要

あり

なし

電気ショック1回
ショック後直ちに
胸骨圧迫から再開

直ちに
胸骨圧迫から再開

- 救急隊に引き継ぐまで
 - 傷病者に普段どおりの呼吸や目的のある仕草が認められるまで
- 続ける

心停止

頭頸部外傷

熱中症

食物依存性運動誘発アナフィラキシー

歯・口の外傷

眼の外傷

心停止

頭頸部外傷

熱中症

食物依存性運動誘発アナフィラキシー

歯・口の外傷

眼の外傷

頭頸部外傷への対応

意識障害の確認例

- 開眼できない
- 話すことができない
- 明らかな運動麻痺
- けいれん
- 繰り返す嘔吐
- 強い首の痛み
- 四肢の痛みやしびれ
- 異常感覚
- 力が入らない

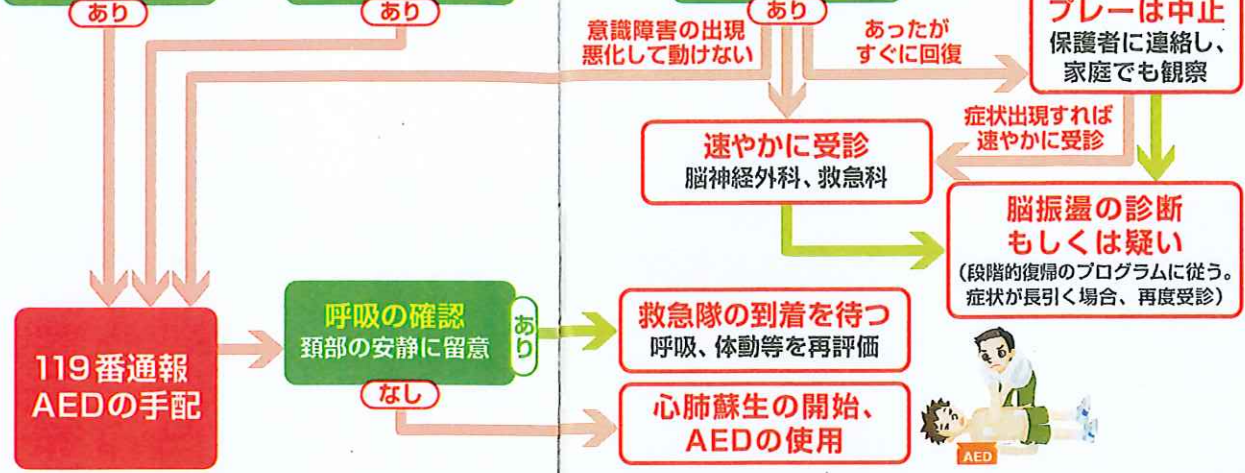
重度意識障害の有無

頸髄・頸椎損傷の有無

脳振盪症状の有無

全く異常がみられない時に限りプレー可能

- 頭痛、めまい、吐き気
- ものが二重に見える。
- 時・場所・人が正確に分からない。
- 打撲前後のことを覚えていない。
- 混乱や興奮状態
- 普段と違う行動パターン
- ふらつき 等



熱中症への対応

熱中症を疑う症状

- ★ めまい・失神
- ★ 四肢の筋や腹筋がつり、筋肉痛が起こる。
- ★ 全身倦怠感、脱力感、めまい、吐き気、嘔吐、頭痛等が起こる。
- ★ 足がもつれる。ふらつく。転倒する。突然座り込む。立ち上がれない。等

意識障害の有無

- 質問をして応答をみる
- ここはどこ？
 - 名前は？
 - 今何をしてる？

- ★ 応答が鈍い。
- ★ 言動がおかしい。
- ★ 意識がない。
- ★ ペットボトルの蓋を開けることができない。等

涼しい場所に運び、衣服をゆるめて寝かせる。

119番通報

すぐに救急車を要請し、同時に体を冷やす等の応急手当を行う。

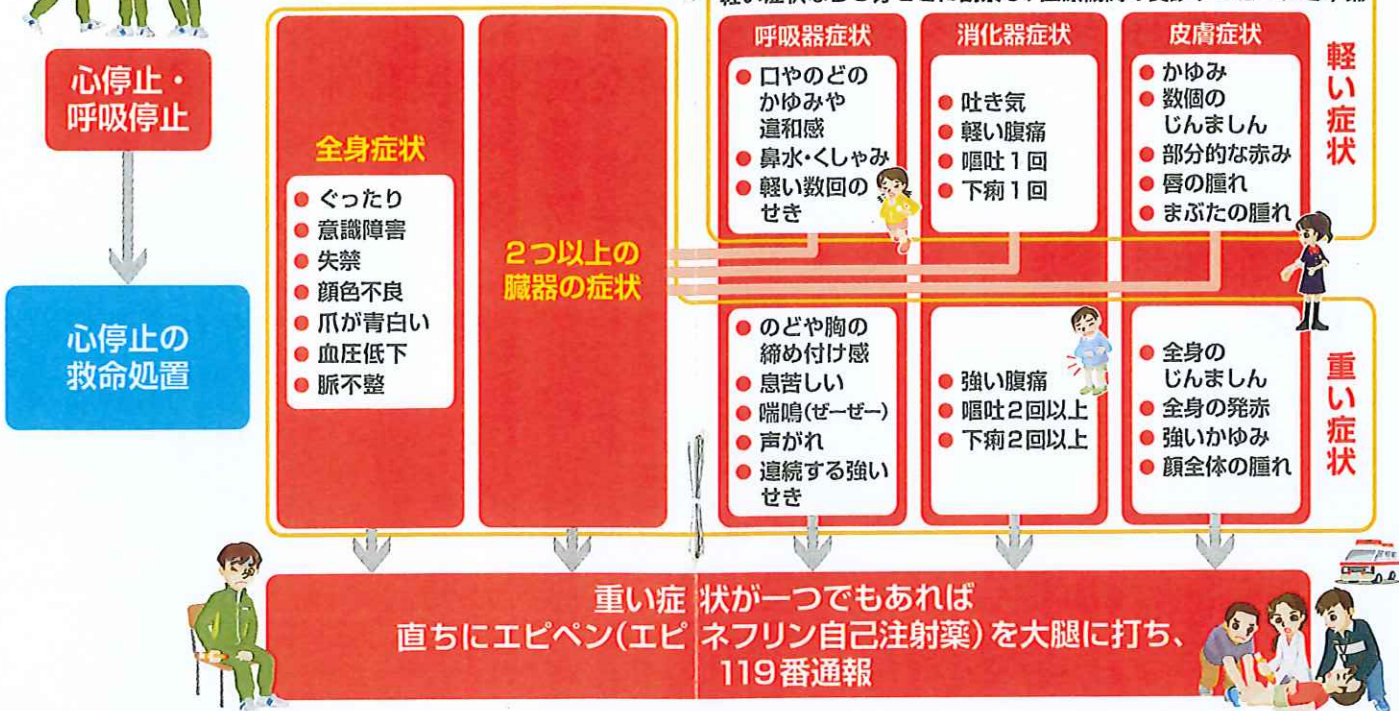


食物依存性運動誘発 アナフィラキシーへの対応

食後2時間以内に起こることが多いが、4時間後でも起こることがある

運動中または直後にアナフィラキシーを疑う症状が出現

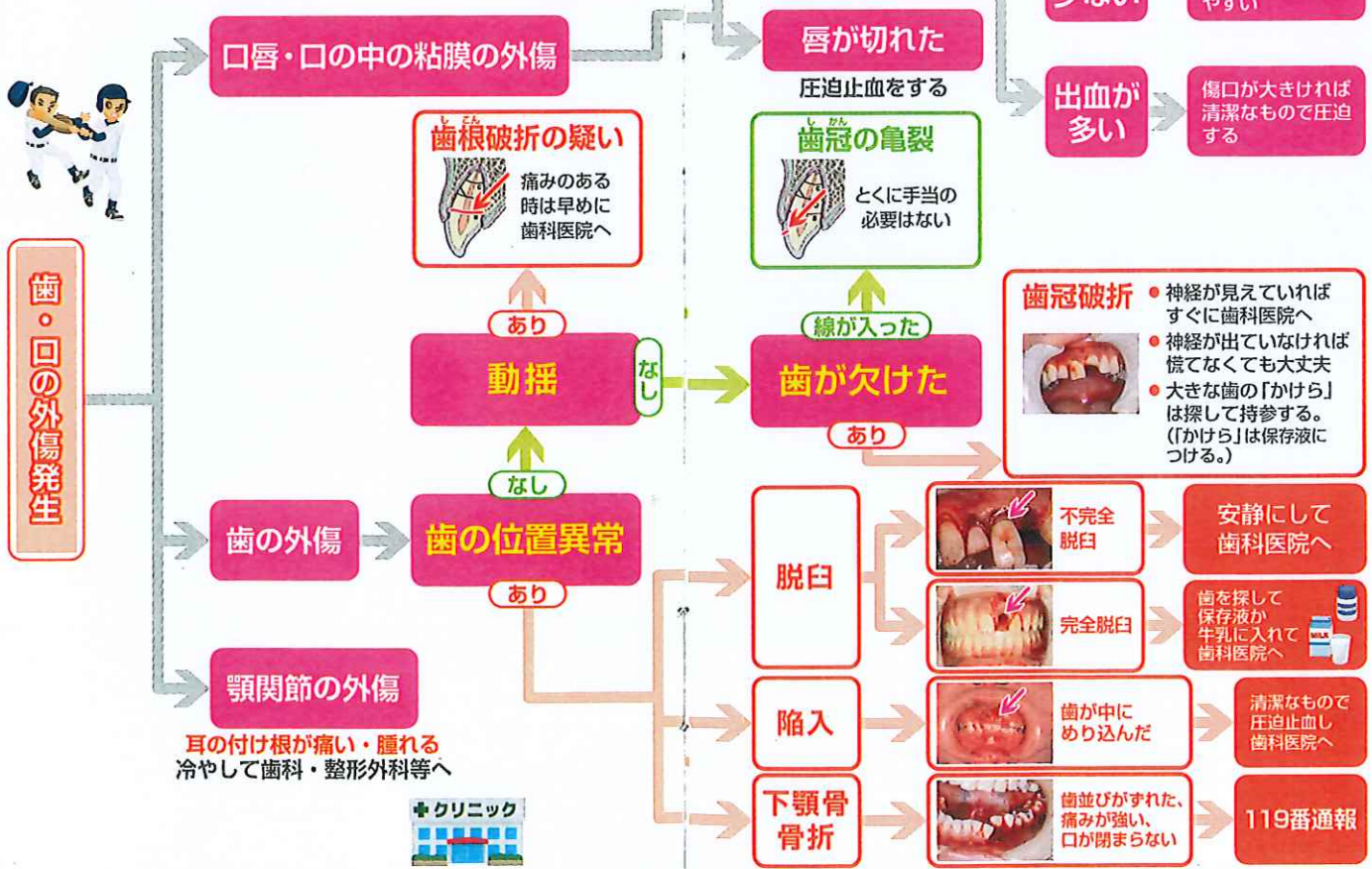
軽い症状なら5分ごとに観察し、医療機関の受診やエピペンを準備



08

09

歯・口の外傷への対応



10

11

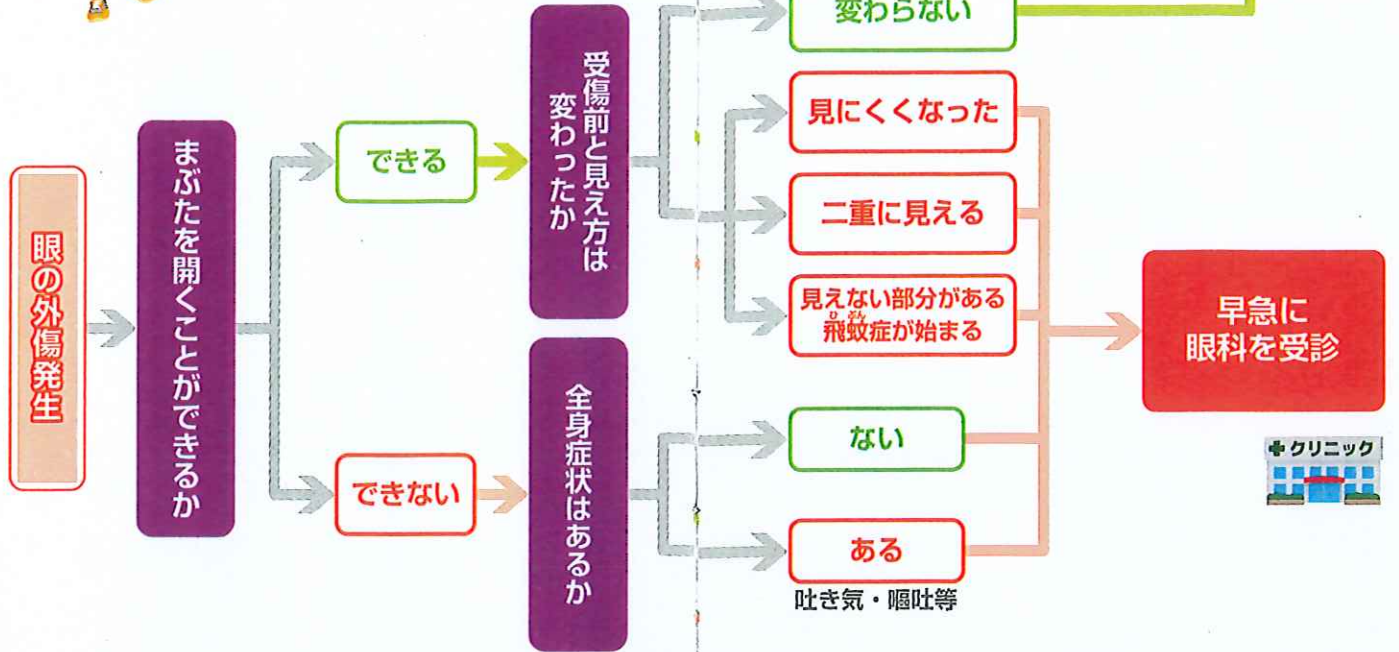
眼の外傷への対応



- 注意する症状は
 - ①まぶたを開くことができるか。
 - ②見え方は変わったか。
 - ③全身症状はあるか。

- 痛みの強さで傷害の程度は判断できず、症状は受傷後すぐに現れるとは限らない。
- 現場の応急処置が大切

経過観察



緊急時対応計画MAP



緊急時は119番通報を



作成日
年 月 日

ここは

学校・施設名

住所

電話番号 ()

〈緊急時 連絡先〉

名前 _____
TEL () _____

図内に書き込みましょう

活動場所 ○

AED 配置場所 **AED**

救急車の進入経路 →

人員配置場所 ①等

(学校・施設の図)

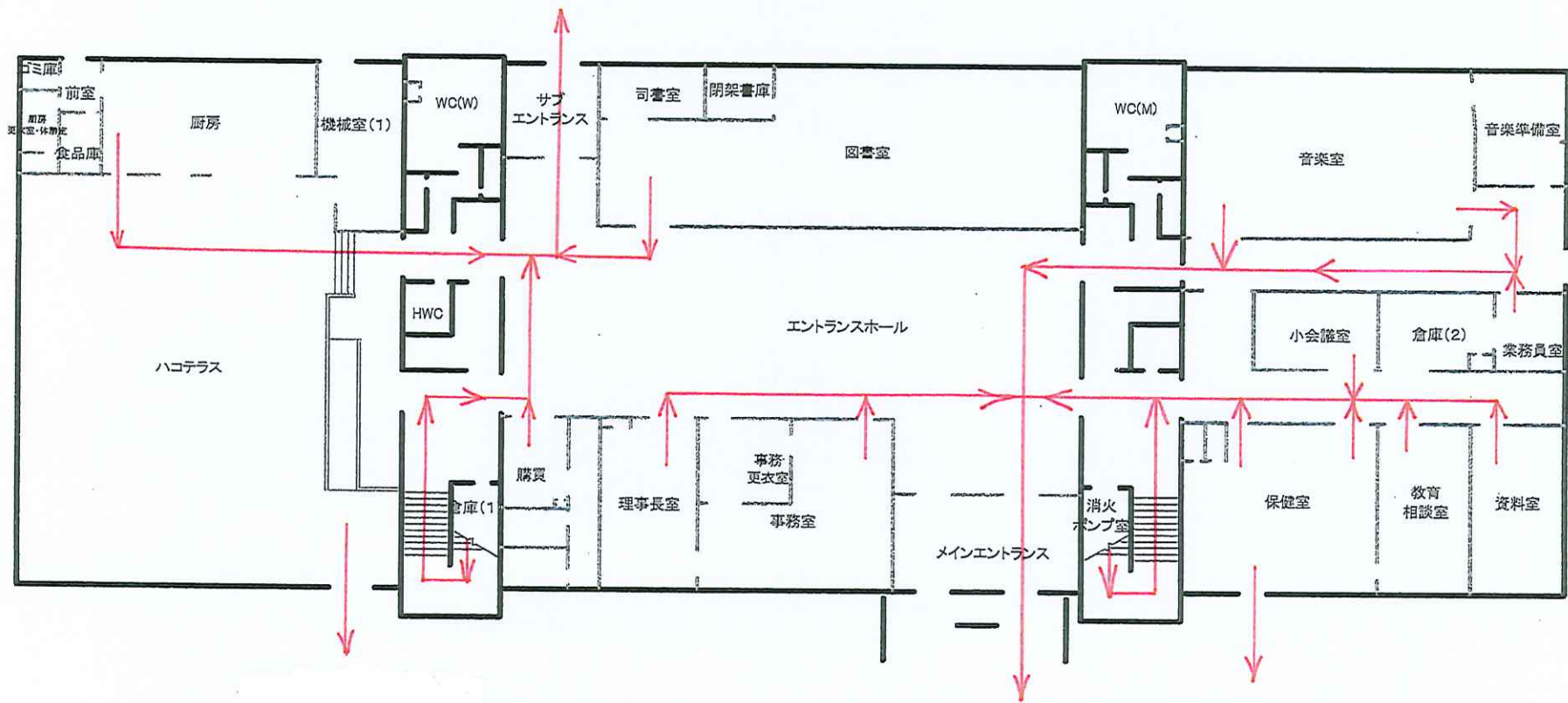
名前 _____
TEL () _____

〈近隣医療機関 連絡先〉

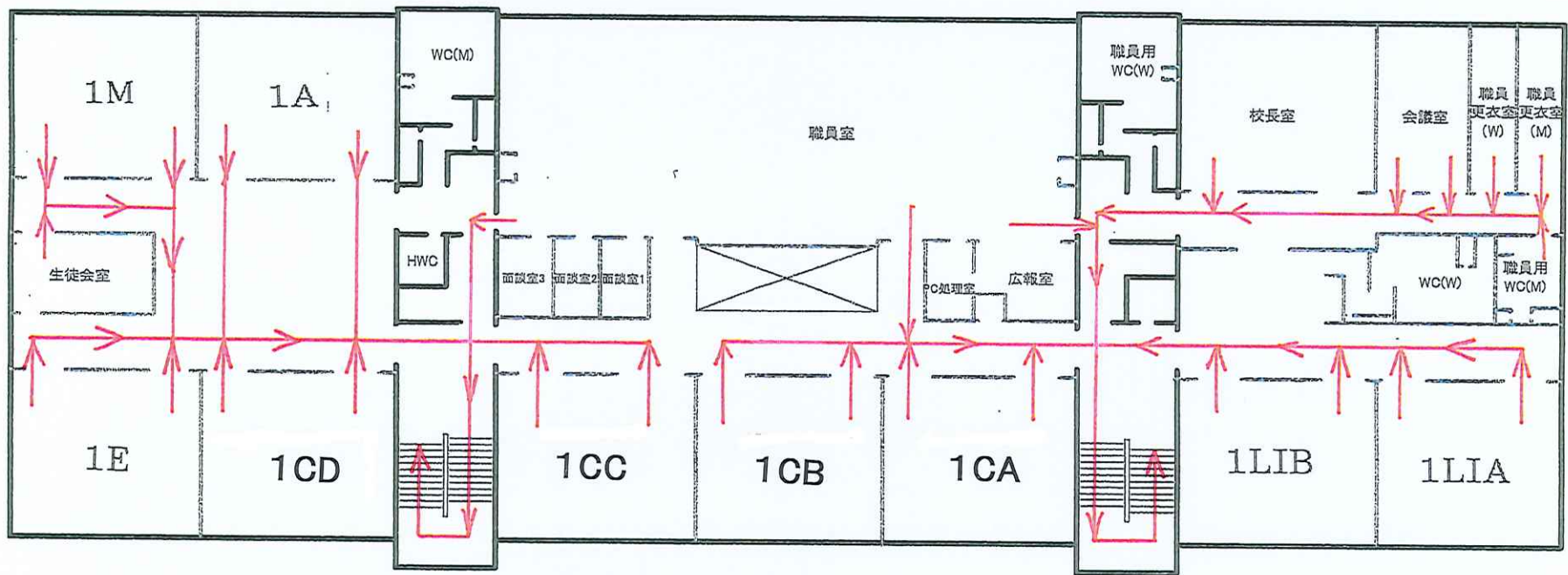
名前 _____
TEL () _____

名前 _____
TEL () _____

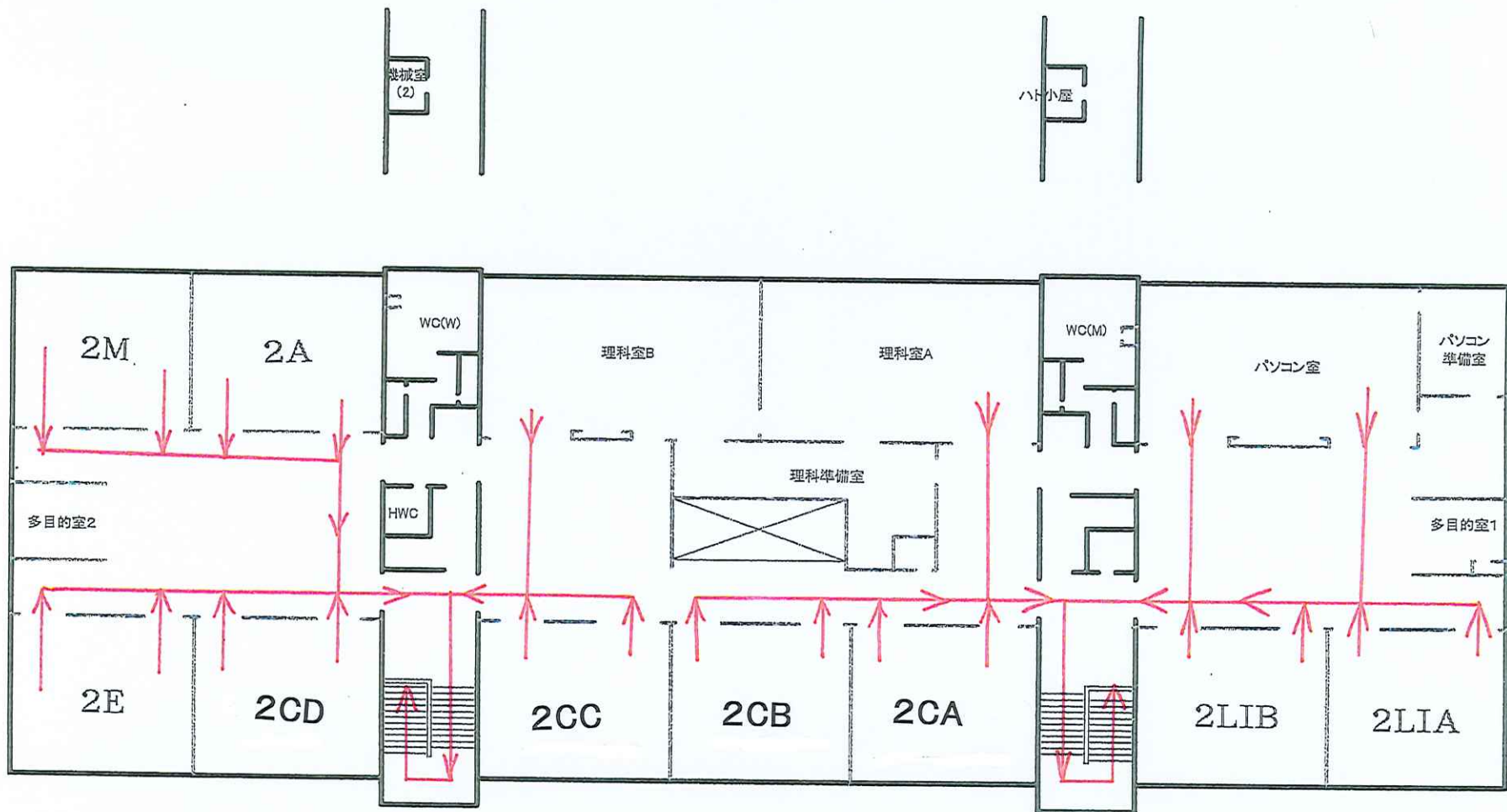
「病院へ行く？」
「救急車を呼ぶ？」
迷ったら…
医療情報センターへ
TEL _____



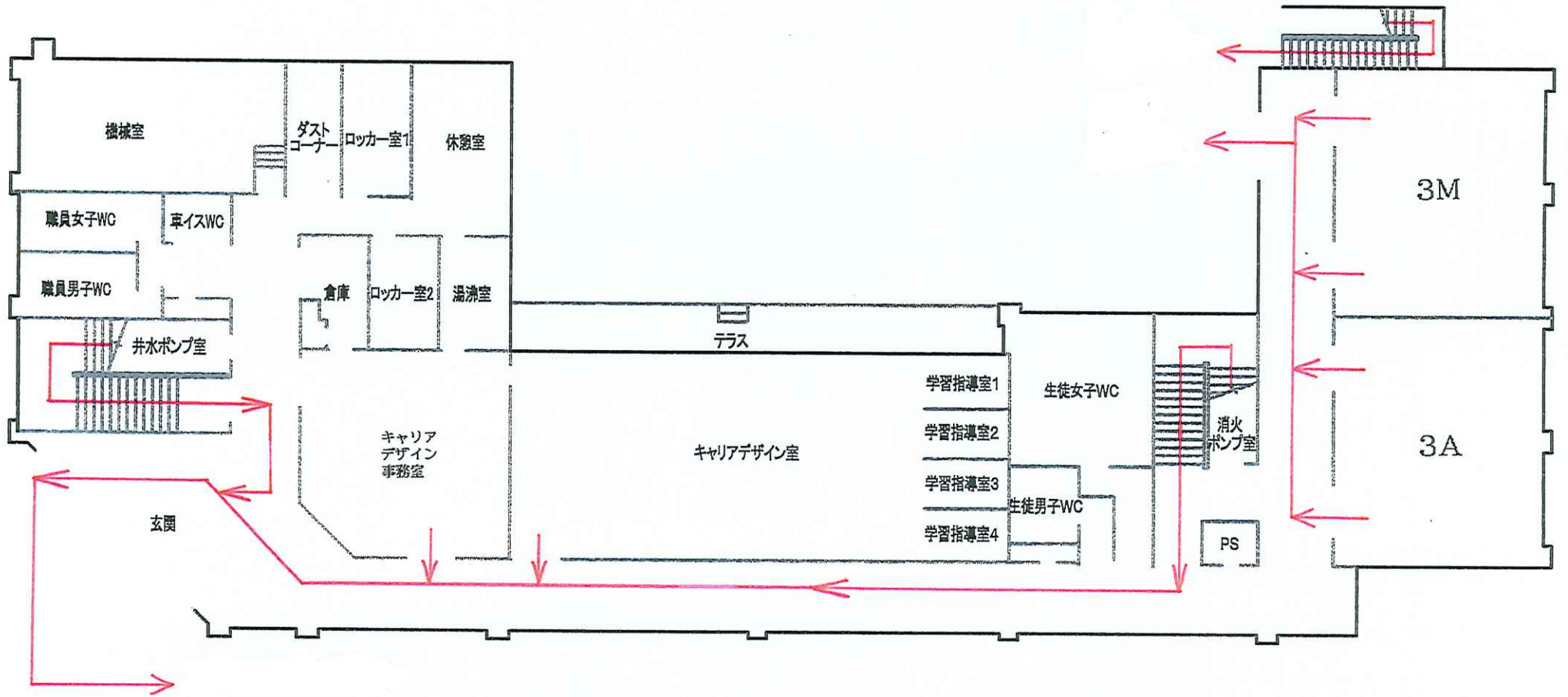
校舎棟 1階



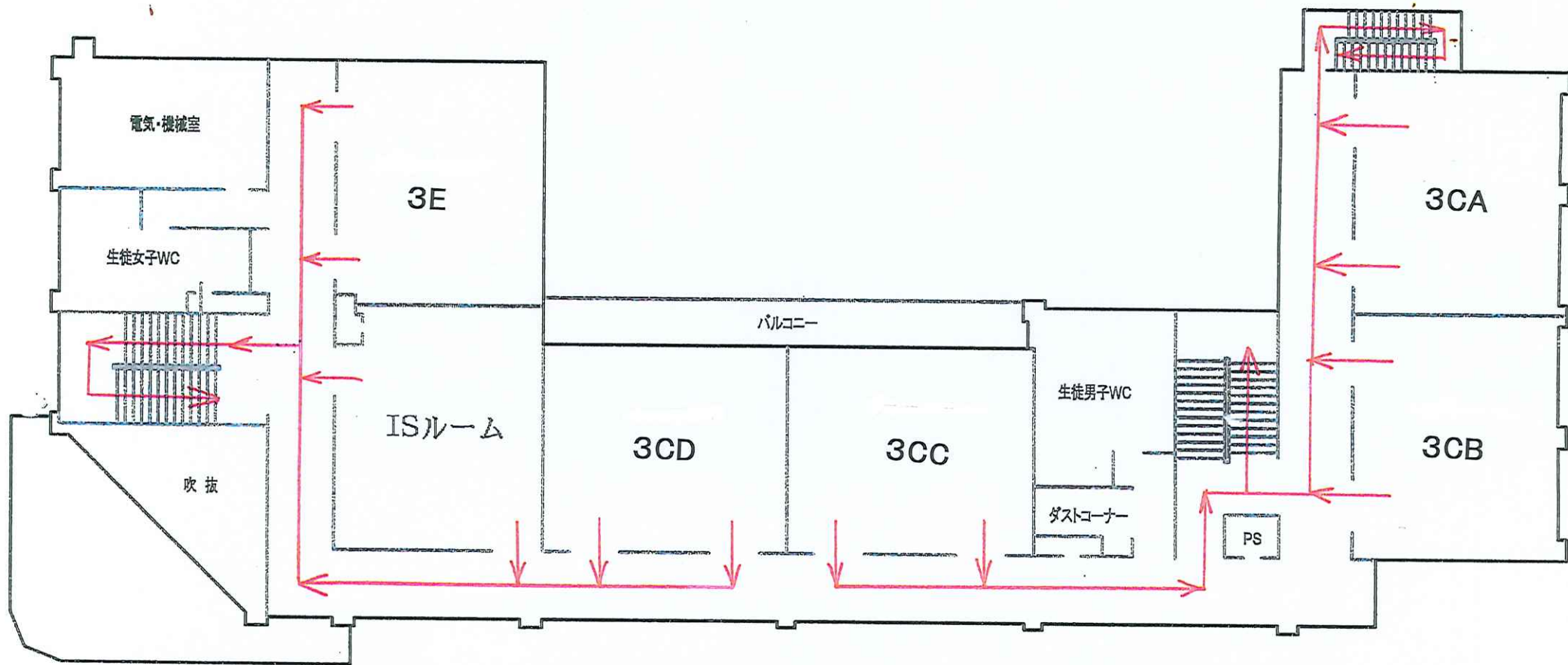
校舎棟 2階



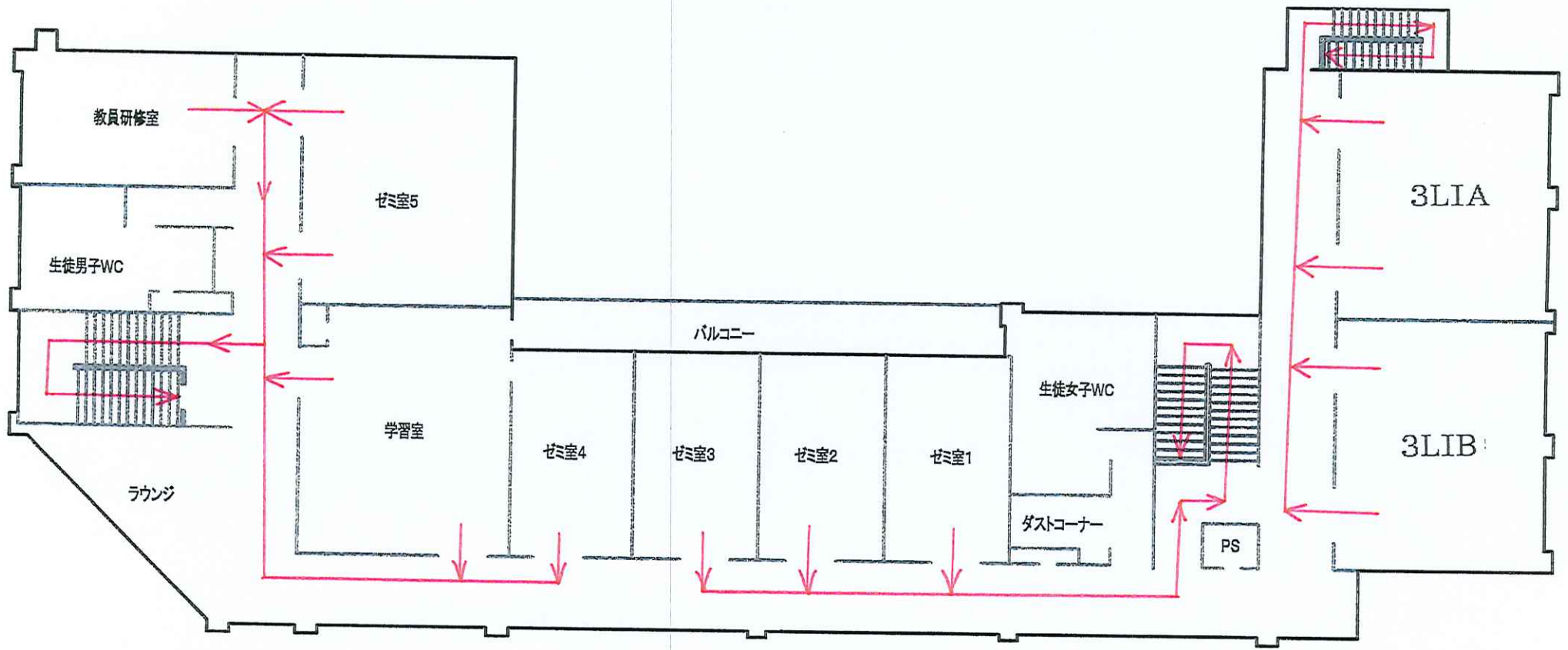
校舎棟 3階・R階



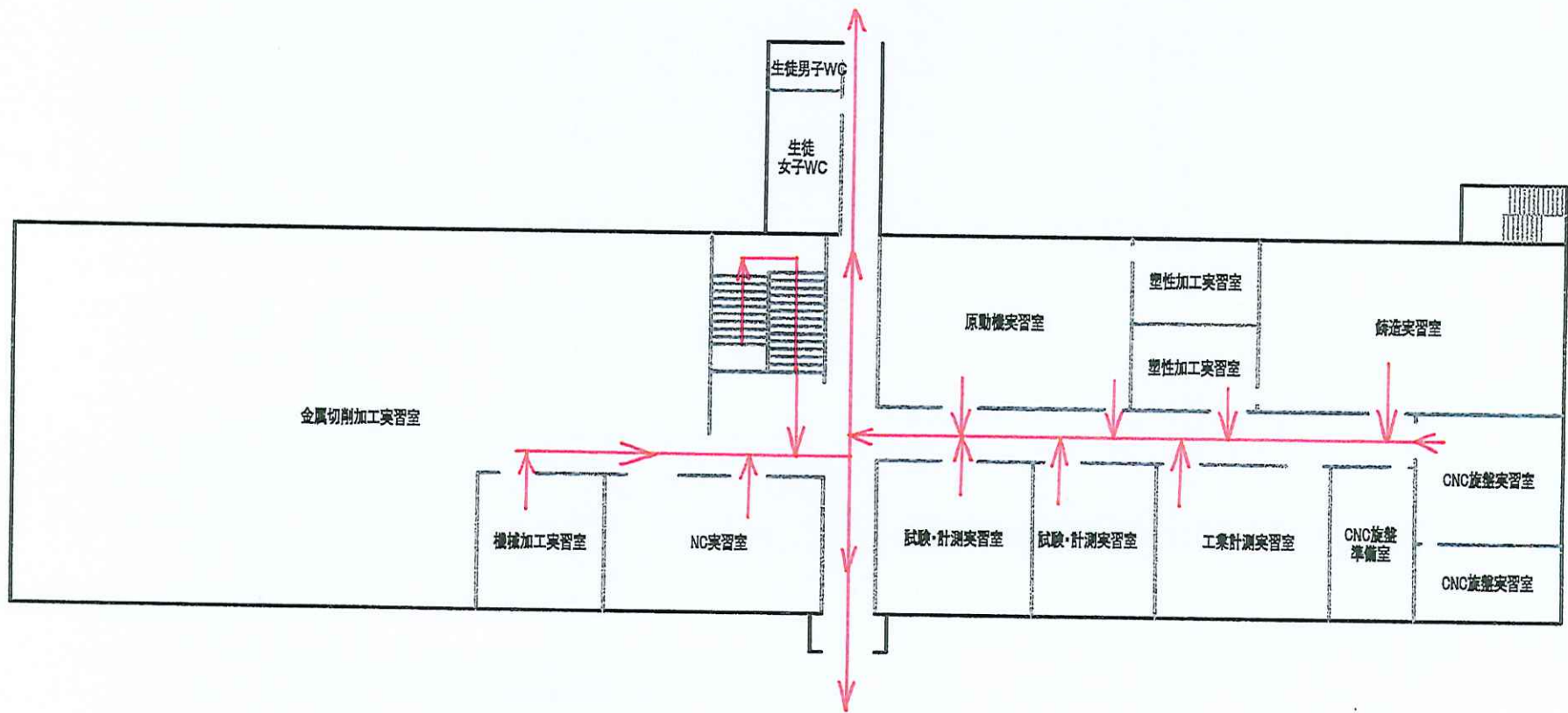
秋元正雄記念館 1階



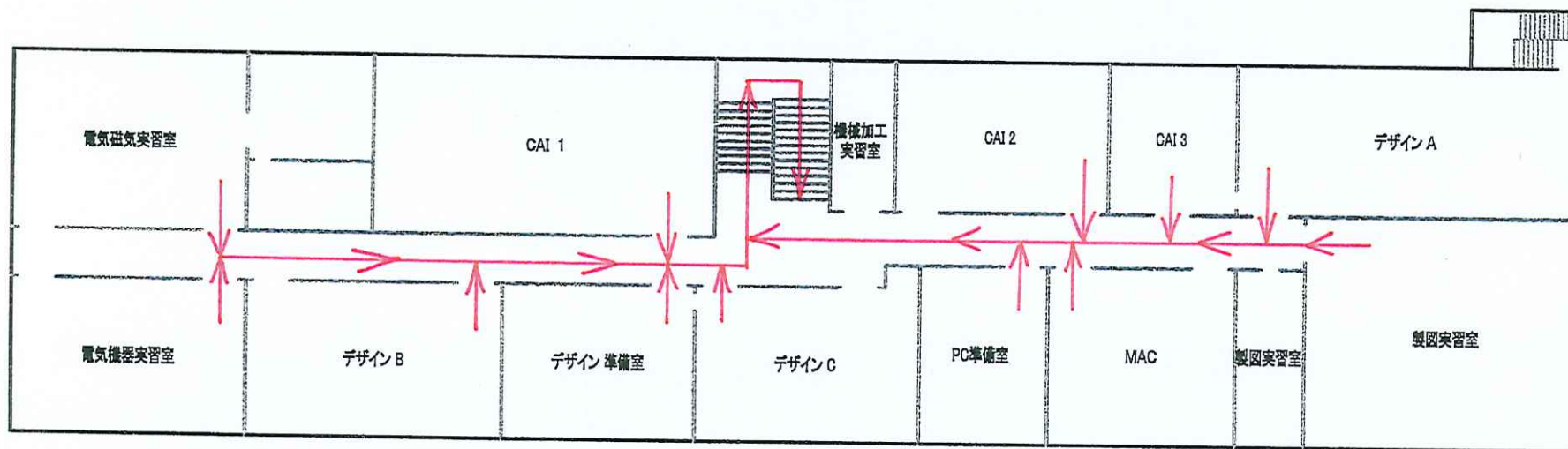
秋元正雄記念館 2階



秋元正雄記念館 3階



専門実習棟 1階



専門実習棟 2階